

小児医療は三位一体で

病院長 中村 肇



どもの安心感を高めてくれます。また、成長したときに自分の幼少時の出来事を母親が繰り返し、繰り返し語りかけることで、子どものころには親への感謝の気持ち、やさしさが培われます。

入院してくる子どもたちは、その不安からいつも以上に母親を頼りにしています。苦しみ、痛みとたたかう子どもたちのベッドの傍らで、そっとその小さな手を握りしめ、やさしくわが子の眼を見つめる母親の存在に、子どもたちは安心し、病と闘うエネルギーを生み出しています。母親には医療者にはないわが子への念力が備わっています。

本年の目標として、看護師、医師をはじめとする医療者は、ご家族と一体となって、互いに「語り合いの医療」を展開することにより、子どもたちが安心して医療を受け、一日も早く元気に家庭に戻れるよう職員一同努力する所存です。

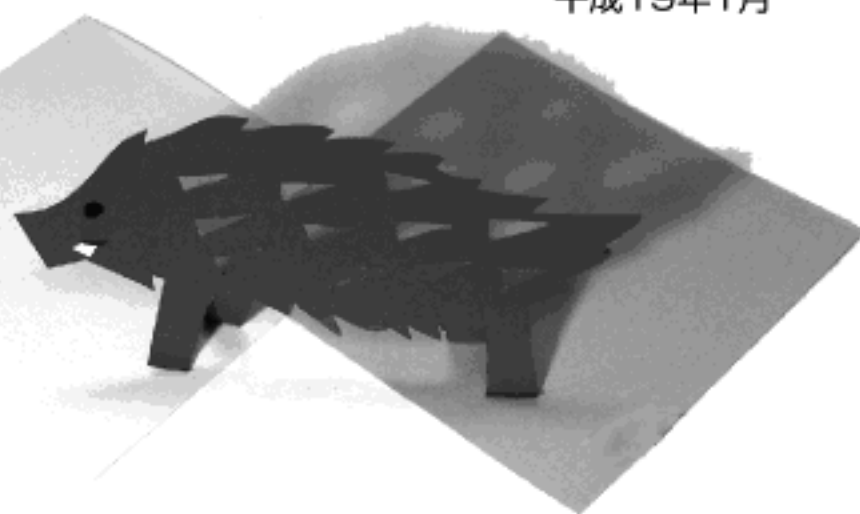
平成19年1月

新年おめでとうございます。本年が皆様方にとって素晴らしい年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年9月には、秋篠宮文仁親王、同妃紀子さまの第三子悠仁（ひさひと）親王殿下がご誕生になられ、その健やかなご成長を祈念し、各地で慶事がもたれました。ご懐妊にあやかり、若い人たちが結婚し、婚姻数も、出生数も増加する見通しとなったと報じられ、少子化克服への微かな光が見えてきたことを大変うれしく思っていました。その喜びも束の間、子どもの自殺、いじめという大変痛ましい事件が多発し、大きな社会問題となっています。また、乳幼児虐待も後を絶たず、その数は年々増加の一途を辿っており、傷を負った子どもたちが救急室にも運び込まれてきます。核家族化が一般化した現代社会では、折角子宝に恵まれても、地域の、社会の支援がなければ、親子は孤立し、育児不安を生み、不幸な結果を生み出します。

私どもは、「安心」と「信頼」の小児医療の提供を目指しています。高度先進医療は、高価な医療機器と医療者だけの力で決して達成できるものではありません。そこに家族の力が結集し、三位一体ではじめて子どもの命を守り、健やかな成育を目指すことが可能となります。

本院では、平成17年4月よりようやく新生児の母子同室制を取り入れ始めました。出生直後からの母子の触れ合い、親子の触れ合いは、親子の絆を強め、育児への自信、子



小児救急医療センター(仮称)の開設について

救急担当部長 上谷 良行

●当院では2002年10月より三次救急（重症・重篤な救急患者）を対象として救急医療室を開設し、救急医療を行ってきました。しかしながら年毎に受け入れる重症患者数は増加しており、このままでは三次救急に十分に対応できなくなることから、今年の秋を目指して新しい小児救急医療センター（仮称）を開設することになり、建設工事が始まりました。

お知らせ



【概要】

建築場所：本館西側

建築面積：約1400平方米

鉄筋3階建て（1階発電機室を含む）

2階：外来部門

初療室、救急外来、感染者用外来、観察室などを設置。

3階：入院病棟部門

小児集中治療室（PICU）4床、救急一般病床6床、カンファレンス室などを設置し、重症・重篤な患者様の治療を集中的に行います。

【特色】

- 基本的に重症・重篤な患者様を対象と致します。
- 救急車が正面から直接初療室前に横付けでき、これまでのように4階の救急医療室までエレベータで運ぶ必要がなくなります。
- 感染患者様用に通常と別の入り口と外来スペースを取り、さらに重症の感染患者様専用の病室を設置し感染症の拡大を防ぎます。

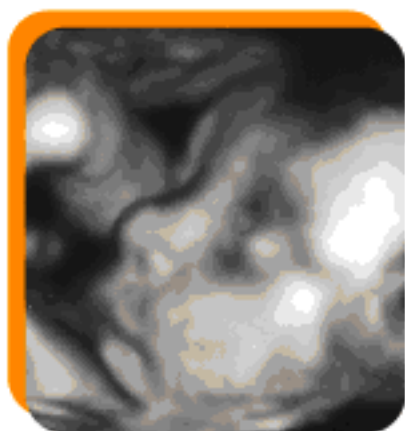
- 4床の小児集中治療室（PICU）を設置し、十分な看護人員とスペースを確保し、重症患者様に対応します。
- PICUとは別に6床の一般病床を作り、PICUで安定した患者様を受け入れます。
- 災害時などに出来るだけ多くの患者様を受け入れるために玄関ホールやカンファレンス室に酸素や吸引の設備を配備し、いつでも緊急用ベッドとして使用できるように設計しています。
- こどもたちのためのセンターとしてアメニティーに配慮します。
今年秋のオープンまではこれまでどおりの体制で三次救急を対象として患者様を受け入れることとなりますが、県下の小児救急体制の拠点としての役割を果たしたいと考えています。

工事期間中、皆様にご迷惑をおかけしますが
よろしく御願ひ致します。

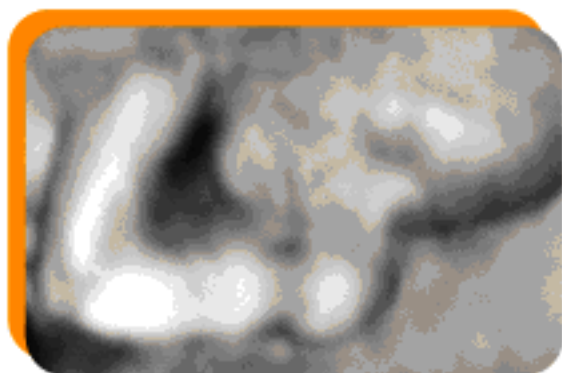
最近のエコー検査について

検査・放射線部 小島 知位子

最近の
超音波診断装置の
進歩は
すばらしい！



●お母さんのおなかの中の赤ちゃん



産婦人科外来や病棟で、胎児の3D/4Dエコーができる高性能な装置があるの、ご存知ですか？4Dとは、立体画像（3次元画像=3D）をリアルタイムで見ることができる機能です。つまり、お腹の中にいる赤ちゃんの動いている様子を立体的に見れるのです。お母さんにとっては、赤ちゃんの具体的なイメージがつかみやすく、見やすい画像だと思います。また、この超音波装置は画像が良く、豊富な機能をもっていて、普段使っている2D（2次元画像）と、この3D/4Dエコー両方を用いることにより、さらに多くの情報を得ることができます。

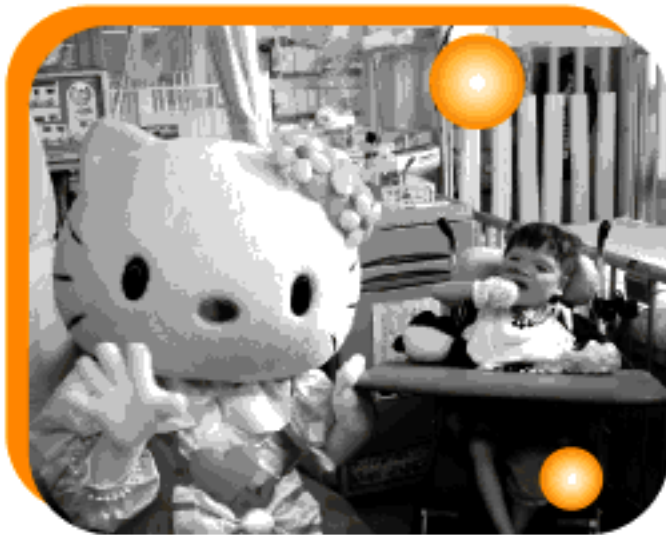
妊娠初期では、まだ胎動を感じる事が無いお腹の中のお赤ちゃんの様子を、超音波検査で見ます。赤ちゃんが元気なのか不安なお母さんに、動いている赤ちゃんの姿を見てもらうことができます。この時に胎児の生存、子宮や付属器の異常、胎児数、胎児の形態などを観察します。妊娠中期・後期では

お腹の中の赤ちゃんも大きくなり、そこから得られる情報も多くなります。胎児の発育は順調か、胎児の形観察、胎盤、羊水、臍帯、血流速度なども観察します。当院では、この時期（中期）に胎児超音波スクリーニング検査のオープン化を実施しています。地域の病院、診療所にかかっておられる方でも、ご依頼があれば、この高性能超音波診断装置を用いた胎児スクリーニング検査を受けています。ご希望の方は紹介状を書いてもらって、当院予約センターに電話予約して下さい。この検査には紹介元の先生、助産師、検査技師の参加も可能です。通常の妊婦検診よりも長い時間をかけて赤ちゃんを見ていきます。この様子はビデオ録画しており、おうちでも見ていただけます。もちろん、検査の時にはご家族の方も一緒に見てもらえます。

キティちゃんが こども病院に やってきたー



- ◆キティちゃん生誕**30**年記念のイベントとして、病気のお子様を励ますために、ピューロランドからキティちゃんが、こども病院にやって来ました。
- ◆子供たちはとっても楽しみにしており、握手をしたり後を付いて来たりで大はしゃぎ。ママたちも一緒に大喜びでした。また、会う時に渡したいと一生懸命似顔絵を書いて待っていた子もいて、これにはキティちゃんの方が感激していましたよ。
キティちゃんに元気を貰えた1日でした。



キティちゃん来訪

超音波検査がきれいにみえるためには？

放射線科医師 山口 善道

Memorandum
From 放射線部門
Radiology

超音波検査って・・・、妊娠中におなかの赤ちゃんが順調に成長していくのを産科で確認してもらっていたのと同じ検査なんです。プローブという器具から超音波をだして、跳ね返ってきた超音波（エコー）を同じプローブで捉えてその信号を画面に映し出しています。おなかの赤ちゃんは水（羊水）の中に浮いていてエコーがきれいに受信できるのですが、こどものおなかの中をエコーでみる場合はそうはいきません。超音波は空気存在にめっぽう弱いのです。プローブと見たいものの間に空気があれば、そこで超音波が散乱してプローブへ返ってこなくなってしまう、画面上は何も見えません。うまく腸のガスを押しどけたりしながらその奥を見ていくのですが、泣いたりあばれたりしたら、動いて細かい観察がしづらいのはもちろんですが、プローブと体の間に空気が入ってしまったり、腸のガスがいろんなふうに邪魔してしまい、目的の臓器が見づらくなってしまいます(T T)。

ですからこども病院では、ミルクを飲みながら検査をしたり、看護師さんに協力してもらってうまいことあやしてもらったり、ビデオを見てもらったり



●エコーの様子

してなんとか機嫌よく検査を受けてもらえるようにしています。家からお気に入りのおもちゃとかビデオテープ(VHS)を持ってきてもらってもいいですよ。

私たちスタッフも子どもさん達に嫌がられる検査だったら、ちょっとでも機嫌よく受けてもらいたい、早く終わらせてあげたい。スタッフもがんばってるんですが、それでも泣いてしまわれたら、ごめんなさいm(__)m

泣いてても少しの間おさえて動かないようにしながら根気よく観察すればみえることも多いのですが、どうしても目的の場所が難しくて見えない時は寝てもらって検査させていただきます。宜しくご協力ください。

「苦いお薬や粉薬の飲ませ方」 についてのポスター展示

薬剤部

- ◆皆さん、「薬と健康の週間」ってご存知ですか？
毎年10月17日～23日までの1週間は「薬と健康の週間」です。
- ◆薬剤部では10月25日～27日までの3日間、病院玄関前の会計待合室前で、「苦いお薬や粉薬の飲ませ方」について「にがいのきらいっ!!」「おくすりへっちらだい!」のポスター展示とアンケート調査（回収133枚）を行いました。
- ◆ポスター展示やアンケート調査では、他の兄弟や姉妹のお薬の飲ませ方の相談を受けたり、日頃のお母様方のご苦労や不安なども直接お伺いでき、大変参考になりました。今後も様々なお薬に関する情報をお知らせしながら、患者様一人ひとりへのきめ細やかな対応を心掛けていきたいと思っています。



Correspondence
From 薬剤部通信
Pharmacy

児童精神科の紹介

前田 宏章

精神科外来は、月曜日から金曜日まで毎日開いており、当院が開院した1970年から現在まで継続されています。児童精神科医は、常勤1名、非常勤4名がおります。

一般的に精神科は、うつ病や神経症、不安障害、統合失調症などを思い浮かべる方が多いと思いますが、当院の精神科は雰囲気なども含めて随分と違います。当科で一番多いのは言葉の遅れや多動などの

症状で来られる発達に関する障害で過半



数を超えています。他には、不安や恐怖などからくる神経症的な障害や不登校などに関する方が多く来られます。

対象疾患

- 自閉性障害、多動性障害、学習障害、精神遅滞、などの、発達に関する問題
- 不安障害、適応障害、摂食障害、解離性障害、身体表現性障害、外傷後ストレス障害、愛着障害、などの心理的、または神経症的問題
- 統合失調症、気分障害などの疾患
- その他、チック、排泄障害、抜毛癖、緘黙の問題など

このように様々なこどもの問題に対応しています。最近では、こどもの自殺、少年犯罪、いじめの問題、虐待などなど注目されることが多い一方で、治療施設の不足や専門医師の不足も問題となっております。その中で、関わらせていただく子どもさんやご家族の幸せや安心に、できる限り貢献できることを願い、診療を続けております。

発達行動小児科外来

永瀬 裕朗

めまぐるしく価値観の変化する現代社会において、こどもがどのように育っていくべきなのかということに簡単に答えられなくなってきています。発達障害、いじめによる自殺などこどもの心理社会的問題についての関心の高まりもこのような変化の速い社会構造に対する私たちの不安の顕れかもしれません。

「こどもの病気」を診ていた小児科学においても、こどもの心理社会的側面まで含めて診療を行うことの重要性が提唱されるようになり、1980年代に米国を中心に発達行動小児科学が確立しました。私が担当する発達行動小児科外来ではこの体系をベースに診療を行っています。

具体的にどのようなこどもの相談にのっているのかということを疑問に思われる方も多いかもしれませんが、「心理社会的側面を考える必要のないこどもはいない」と考えるならば、「すべてのこども」が

対象となりますが、実際には発達障害の診断と療育支援、小児心身症の治療などを中心に行っています。

発達障害など児童精神科とはオーバーラップする部分があり、「どちらを受診したらよいのか？」と迷われる場合もあるかと思えます。患者ご家族の方々が「あっちでこう言われたのに、こっちではこう言われた」という事態で混乱されることがないように、当院精神科の前田先生とはディスカッションを緊密にとっています。

また、神経性食思不振症のこどもたちに関しては、身体面の治療と心理社会的治療との両方が必要である場合が多く、精神科・心理士と協力してチームで治療にあたっています。

外来日数が少ないために、特に初診の患者様には受診をお待たせしてご迷惑をおかけ致しておりますがご理解の程よろしくお願い申し上げます。

What's
new
in the hospital?
診療部とクリニック

当課職員が知事賞受賞!

第42回職員作品展・絵画の部において、主任調理員の直島優子さんが知事賞の表彰を受けました。「四つの物」という作品について本人から紹介します。

今回出品した作品を描くにあたって、モチーフ(対象)はどこにでもあるような物にするつもりでした。私の田舎である鹿児島県徳之島では「すす」という焼酎を入れる角ばった器がよく使用されていました。このフォルムに魅せられこの1点のみを描くつもりでしたが、キャンバスとのバランスをみると間がとれなかったため、身近にあるものを四つ並べました。それぞれの持っている特徴をどこまで引き出し自分の心に写し取られるか、また手に取れるような臨場感を感じられるように心を込めて描きました。「四つの物」は次のようなテーマを持って仕上げました。



(右から)

- 貝…他のものがない稜線、曲線、静かな動き
- 壺…備前焼のテツ色、両肩の曲線、模様の色
- すず…金属の冷たいシルバ色の濃淡、型のバランス
- 南瓜…仕事柄いつも目にしていて野菜の中で存在感、面白みと深みのあるグリーン色の流れバック(背景)の色は空気の中でモチーフの個を生かせる色としてネイビーブルー系を混色としました。さらに、思い切って斜め15~30度に光を採り入れて、全体を見つめてみました。

学生時代から好きだった絵画を本格的に再開して9年。今回いただいた賞を励みに描き続けて、こども達やお年寄りに絵を教えるという夢に向

かっていきたいと思います。

この紙面では作品の雰囲気や伝わりにくいかもしれませんが、こども病院に作品を展示させていただく予定ですので、実際にご覧になり深い色合いや臨場感を感じ取っていただければ幸いです。

第3回 かくし芸大会

平成18年10月20日に子どものための隠し芸大会「よっ日本ー!」が行われました。3回目となる本年は「お手玉・紙芝居・バイオリン・歌・バルーンアート・箏曲」と盛りだくさんでした。出演者の皆さんは、子どもたちに見せようと日々練習を重ねて本番に挑みましたが、緊張でガチガチの出演者も…。どの演目も歓声と拍手で会場が賑わいました。皆さんの近くの職員にも意外な隠し芸があるかもしれませんね!!





基本理念

周産期医療および小児医療専門施設として、母と子どもの総合的、高度専門的な医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1.子どもの権利を重視した医療の実践。
- 2.安心と信頼の医療の遂行。
- 3.専門的な高度医療の推進。
- 4.地域の医療・保健・福祉機関との連携。
- 5.親と子の健康啓発活動への貢献。
- 6.子どもへの愛とまことに満ちた医療人育成。

患者権利宣言

- 1.あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
 - 2.あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
 - 3.あなたとご家族は、医療について同意や拒否の権利があります。
 - 4.あなたとご家族のプライバシーは守られます。
- ◆みなさまと私たち職員がお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。
- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。

「げんきカエル」で取り上げてほしいテーマがありましたら、食堂前廊下の掲示板にあるテーマ応募箱へぜひお寄せください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
皆様のご協力のもと「げんきカエル」も今年で4年目を向かえました。今回も快く原稿を寄せていただきました方々にお礼申し上げます。「げんきカエル」はこれからもますます皆様に喜んでいただけるような情報を提供していきたいと思っております。そして本年の目標である「語り合いの医療」を展開する上で、この「げんきカエル」が医師、看護師をはじめとする医療スタッフとご家族の語り

合いの場になるよう、皆様からの声を紙面に取り上げていきたいと思っております。ぜひ皆様方のご意見ご感想をお寄せください。今号の担当は春名でした。

編集委員長：大橋 正伸（診療部）

編集渉外担当：行 祥子（指導相談・地域医療連携部）

編集委員：清水 俊文（検査・放射線部）、風 眞貴子（看護部）、
福田 朝恵（薬剤部）、春名 真巳子（看護部）、

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp